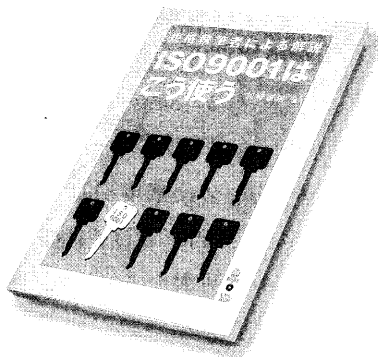


規格執筆者の書き下ろし 甘いニーズに妥協せず 意図を厳格に伝える



ISO 9001:2000を作成するISO/TC176の会議には、多い時で十数人の日本人が参加したが、規格執筆作業に実際に参加した日本人は加藤重信氏ただ1人である。2000年版がどのような意図で作成され、どのような議論を経て現在の形になったのか、その現場からの第一次情報が本書の価値である。2000年版に関する書籍は巷に溢れかえっている。しかし、それらの書籍に記述されている規格の意図や解釈のオリジナルはどこから来ているのか。それはISO/TC176の会議報告であり、その会議報告を行うのはTC176の国内委員会のメンバーであり、そのメンバーの中でISO 9001に関する報告を行ってきたのは加藤重信氏なのである。規格の意図を厳格に伝え、審査側や受審側の甘いニーズに妥協していないので、「正論派」には歓迎されるが、「現実派」には反発も多いはず。

規格執筆者による解説
ISO9001はこう使う

加藤重信 著

発行所：システム規格社 (TEL03-3519-2210)
発行日：2003年7月8日
定価：本体2,571円＋税
体裁：B5判、261頁

導入済み組織の一般従業員向き 外着から普段着へ着替えて 活き活きしたシステムへ



読書層として、既にISO 9001を導入している組織の一般従業員を想定してまとめられた一冊。筆者はISOのコンサルタントであるが、以前、小生と会った時の会話の中で、「コンサルティングのクライアントの内訳は、認証取得済み組織の割合が半分を越えていますよ、恩田さん!」と言われたことが、本書を手にした時、思い出された。取得時だけでなく運用期に入っても、そのやり方次第では、膨大な社内コストを生じさせかねないISOのマネジメントシステムに関して、取得後のコンサルティングサービスへのニーズが急激に高まっているのは事実だ。このことは裏を返せば、実際に運用に苦労している組織が相当数いるという現実があるはずで、実際、小生の取材先でも苦労話を耳にする機会が多い。新書版でイラストが多用されている構成なので、普通の方でも難なく気軽に読み切ることができるだろう。

活き活き ISO9001
—日常業務から見た有効活用—

国府保周 著

発行所：日本規格協会 (TEL03-3583-8002)
発行日：2003年6月12日
定価：本体1,300円＋税
体裁：新書判、184頁

環境側面の誤解と呪縛を解く おもしろくヤル気 が出る待望書



本書ではまず、ISO 14001の環境側面の解釈における誤解とそれに伴う組織の呪縛を解き、整理し直した上で、製造業、建設業、サービス業それぞれについてプラスの環境側面とは何かについて考えていく。どの業種にも共通して言えることは、設計、開発、企画段階の重要性だ。対症療法ではなく、「対策は真の原因に打て」ということである。さらに経営的、システム統合的観点から今後の方向性、側面のとらえ方や評価方法にアプローチしている。紙、ゴミ、電気を超えて本来業務の活動や、製品、サービスの環境側面に真正面から取り組もうという声が増しに高まっている中、「プラスの環境側面」と銘打った本書は待望の書と言えるだろう。環境破壊の元凶、最大の環境側面であるヒトは果たして「最大のプラスの環境側面」になれるのだろうか。(9月1日に出版記念シンポジウムを開催。詳細は96頁参照)

ISO 14000 経営に役立つ
プラスの環境側面のとらえ方

西嶋洋一/小野隆範/平林良人 編著

発行所：日科技連出版社 (TEL.03-5379-1238)
発行日：2003年5月26日
定価：本体3,500円＋税
体裁：B5判、289頁